

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は2016年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施する。

2 練習について

- (1) 練習会場及び競技場では、逆走、チューブ・牽引ロープ等の器具を使った練習は、危険防止のため禁止とする。
- (2) 投てき練習は危害予防に特に留意すること。W-up 場での投てき練習は禁止する。
- (3) 投てき競技においては必ず競技役員の指示に従って練習すること。
- (4) 走路の使用は原則として以下の通りとする。状況により変更があるときは係員の指示に従うこと。

◎メイン競技場	◆1～2レーン：中長距離・競歩	◆3～7レーン：短距離	◆8～9レーン：ハードル
◎補助競技場	◆1～2レーン：中長距離・競歩	◆9～10レーン(ホームストレートのみ)：100mHと110mH	
	◆3～4レーン：短距離		
	(スタートダッシュはホームストレートスタート地点 ※ホームストレートは5～8レーンも使用可)		
	◆第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路にかけての5～6レーン：400mH		
◎雨天練習場	◆1～2レーン：ハードル	◆3～4レーン：短距離	◆5～6レーン：走幅跳・三段跳

3 招集について

- (1) 招集所は本競技場メインスタンド下の室内練習場に設ける。(100mスタート地点側)
- (2) 招集時刻について
 - ア トラック種目は競技開始20分前に完了する。
 - イ フィールド種目は競技開始30分前に完了する。ただし、棒高跳については60分前に完了する。
 - ウ 混成競技は第1日目及び第2日目の最初の種目のみ招集時刻どおりに実施する。以降、種目ごとの招集は行わない。競技者は各種目のスタート位置またはピットに10分前までに集合して競技役員の指示を受けること。フィールド競技では30分前より競技役員の指示により練習できる。
- (3) 招集の方法について
 - ア 競技者は、招集完了時刻5分前までに招集所内の席で待機し、最終点呼を受ける。その際、ナンバーカード・スパイク・商標等の点検を受ける。(トラック競技のみ腰ナンバーカードを受け取り出発までに右腰部やや後方に付ける。)
 - イ カメラ類、ラジオ、トランシーバー、携帯情報端末(デジタルメディアプレーヤーを含む)もしくは類似の機器の持ち込みは禁止とする。
 - ウ 代理人による点呼は認めない。2種目を同時に兼ねる競技者は「2種目同時出場届」(招集所に準備する)を競技者係に提出し、競技の進行に支障のないようにすること。
 - エ 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権とみなして処理する。
 - オ 棄権する競技者は招集完了時刻までに所定の「棄権届」(招集所に準備する)を競技者係に提出すること。
 - カ ナンバーカードは所定の大きさのままで胸・背部両面に付けること。ただし、跳躍競技は背部または胸部のみでもよい。

4 競技の抽選及び番組編成について(レーン順・試技順)

- (1) トラック競技におけるレーン順およびフィールド競技の試技順はプログラム記載順序による。ただし、準決勝・決勝の組み合わせ、レーン順は主催者が公平に決める。
- (2) トラック競技においてプラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たとき(以下「同タイム者」という)は下記の方法で決定する。
 - ア 100m・200m・400m・800m・400mH・4×100mR・4×400mR の同タイム者(チーム)については、レーンの余裕の範囲内で次のラウンドに進むことができる。レーンに余裕のない場合は、判定写真を拡大し、細部まで読みとり、着差の判定をする。それでも判定できない場合は、同タイム者またはその代理人によって抽選す

る。

イ 1500m・5000m の同タイム者は、次のラウンドに進むことができる。

5 競技について

(1) トラック競技

ア スターターの合図は英語（イングリッシュ・コマンド）で行う。

イ 不正スタート1回で失格とする。（参考資料 P.6）ただし、混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後に不正スタートした競技者は、すべて失格とする。

ウ トラック競技は全て写真判定装置を使用する。

エ レーンの競走においてはフィニッシュライン通過後も自己レーン（曲線）に従って走ること。

オ 5000m 及び 5000mW については、気象状況によっては給水を実施する。

カ リレー競技に使用するマーカーは1人1カ所に限り使用することができる。マーカーは前走者が取り除くものとする。

キ リレーのオーダー用紙は招集所にて競技者係から受け取り、各ラウンド第1組目の招集完了時刻の1時間前までに1部を競技者係に提出すること。決勝においても同様にオーダー用紙を提出すること。

(2) フィールド競技

ア 競技場内での練習は、全て競技役員の指示に従って行うこと。

イ 投てき競技の計測は光波測定器を使用する。

ウ 跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側（走高跳は助走路内）に主催者が用意したマーカーを2個まで置くことができる。サークルで行う投てき競技は、マーカーを1つだけ使用することができる。

エ 携帯電話等、競技規則 1 4 4 条 3 (b) に関わる機器は競技場内に持ち込むことができない。

オ 走高跳バーの上げ方は最後の一人になり、優勝が決まるまでは下表の通りとする。ただし気象状況により変更する場合がある。

種別・種目	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	以後1人になるまで
男子走高跳	1.55	1.60	1.65	1.70	1.75	1.80	1.85	1.90	1.95	3 c m
女子走高跳	1.30	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	1.60	1.63	1.66	3 c m

カ 「棒高跳」と「混成競技の走高跳」の練習及び開始の高さは当日決定する。

6 競技用具について

(1) 投てき用具は競技場に備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用ポールに限り、個人所有のものを使用することができる。

(2) スパイクシューズのピンは7mm以下とする。走高跳及びやり投は9mm以下とする。

7 表彰について

(1) 各種目3位までの入賞者に賞状を授与する。

(2) 各種目優勝者にメダルを授与する。

8 その他

(1) メインスタンド開門時刻は両日とも7:00とする。（メインスタンド中央入口から開ける）

(2) 発病、負傷に対しては応急処置以外の責任は負わない。医務室は本部席にある。

(3) 貴重品の管理は各人で行うこと。紛失の責任は負わない。

(4) メインスタンドでの集団応援は禁止する。また、競技の進行にも配慮しながら応援すること。

(5) 記録の証明を希望する競技者は、庶務係の受付に用意した記録証明書交付願に300円を添えて申し込むこと。

(6) 当日の記録は記録掲示板に掲示する。

(7) 日本選手権で実施される種目において8位までの入賞者（競歩は3位まで）は、中国五県対抗陸上競技選手権大会の出場資格を得ることができる。